

## JICA 基金活用事業 案件概要

<b>I. 事業の概要</b>	
1. 事業名称	マダガスカルの児童栄養改善に向けた森林農法の新たな果樹・野菜導入のスタートアップ支援
2. 活動国・地域	マダガスカル共和国 ①ヴァキナンカラトラ県アンツィラベ市郊外、②ブングラヴァ県アンカディーノンドリー・サカイ市郊外 ③イタジー県ソアヴィナンドリアナ市郊外
3. 事業分野	<input type="checkbox"/> 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業
4. 事業の目標	マダガスカルの児童の栄養失調と森林減少問題との同時解決に向けて、現地 NGO や自治体・関係省庁と協働で森林農法の植え方（樹木と作物との立体的・効果的な混植）による樹種・作物の導入を通じて、新たな栄養改善と森林回復に努める。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	農村の児童の4割以上が慢性的に発育不全であり、また中央高地の森林が焼き畑農業や薪炭材伐採によって破壊されている。特に不足する栄養素はビタミンAとカルシウムと推定されており（白鳥ら、2018）、これらを多く含む果物（果樹）や野菜の栽培と植樹によって「栄養に配慮された農業」の効果的な実践が求められている。
6. 事業の意義・目的	個別の栄養補給のために森林農法を活用する事業は、おそらく「同国では初」となるだけでなく、アフリカ低所得諸国の栄養改善・環境保全型農業システム普及に向けて国際農政的に注目される「小規模農家と食料安全保障の支援」にも寄与する。途上国での自家栽培の多様化が栄養バランス向上につながる先行研究を実践的に広げる事業としても有益である。
7. 主な対象者（受益者）	対象地域の1～15歳の児童を持つ農民世帯の計100軒。現地の小学校の各校長先生にあらかじめ照会し、対象世帯を推薦してもらう（連携先 NGO マダガスカル・ミライによるこれまでの植林や小学校支援を通じた活動基盤と人脈を活用）。
8. 実施期間	（西暦） 2026年 1月～ 2026年 11月
9. 活動内容	1.対象世帯に向けて研修会を開催し、副菜の多様化や植樹の必要性を解説・共有する。 2.研修会でビタミンA・カルシウム源となる果樹等の苗木と野菜タネを配布する。 3.配布時と半年後のアンケート等によって児童の健康や農作物の生育等を確認する。
10. 事業費	600,000円
<b>II. 団体の概要</b>	
1. 実施団体	国際協力団体 Keep The Smile
2. 主な活動内容	1.フェアトレード品の大学内売店、大学祭、および横浜市内イベント等での販売 2.発展途上国の環境・社会問題やフェアトレードに関する勉強会、講演会等の開催 3.マダガスカルでのフェアトレード品の生産現場調査と小学校への文房具の寄贈